| 令和５年度（2023 年度）<br>第２回函館市観光基本計画策定検討委員会　議事録 | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和５年（2023 年）６月 28 日（水）18:30～20:15 |
| 開催場所 | 函館市役所　本庁舎８階　第１会議室 |
| 出席委員 | 奥平委員長，古地委員，奥野委員，西村委員，一戸委員，飯野委員，織田委員 |
| 欠席委員 | 中島委員，渡部委員，纓坂委員，土田委員 |
| 事務局 | 観光部次長，観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長，国際観光課長，企画担当主査，企画担当主任主事 |
| ㈱北海道二十一世紀総合研究所 | 佐藤主任研究員，布川主任研究員，菅原主任研究員，小俣研究員 |
| 議題 | 函館観光が目指すあるべき姿について |

## ■　議事概要

事務局および（株）北海道二十一世紀総合研究所より，説明事項（１），（２）について資料１～２に沿って説明。

続いて，事務局および（株）北海道二十一世紀総合研究所より議題について，資料３～４に沿って説明。その後，委員による討議を実施。

主な意見は以下のとおり。

## ■　委員からの主な意見

（１）観光消費額が市民生活に与える影響と観光の経済波及効果について（資料３より）

- 市民に納得いただくためには，循環イメージの提示だけでなく，例えば雇用であればどれくらい拡大したかなど，データを根拠として示す必要があるのではないか。
- 域内循環について地域の方々に説得力を持たせるためには，函館市内の域内循環を可視化する必要がある。
- 観光が市民生活に与える影響として，雇用の拡大ということを否定するつもりはないが，観光業が人手不足で悩んでいる現状でこれを計画の中に表現することについては，現実との乖離や関係事業者に受け入れられるだろうかという不安がある。そこをどうクリアしていくかが今後５年の一番の課題感のひとつであり，資料にある「量より質」というキーワードが大事になってくると思う。

（２）観光入込客数の水準について（資料４より）

- コロナ禍を経て宿泊業は調子が上がってきているが，部門によってはまだ需要が戻らない状況にある中で，事業者としては目標数値をあまりにも高く設定されると実際との乖離が生じてしまう。観光関連事業者が納得できる数字にするためには，もう少し様々なデータを拾い分析し，仮定をお示しいただいて議論した方がよい。
- 個々の事業者は自社の売り上げを重視しており，函館市としてどれくらいが適正の宿泊数か，観光入込客数かというのは恐らく誰も考えていないため，一定の算式のもと，これくらいが函館観光は適正であるといった形でご提示いただいた方が，根拠があって良い。
- 宿泊施設の稼働率の観点からすると，繁閑差が激しいため雇用確保に非常に苦労している。入込が通年で安定的になると，経営的にも安定する。現在の人手不足の状況からオンシーズンを伸ばすことは厳しいが，オフシーズンを伸ばすことは可能なため，そういったところも踏まえるべき。
- 受入側としては，繁閑差がある中で 600 万人と掲げられることは難しいが，例えば上期に 300 万人，下期に 300 万人といった形であれば可能性はある。決して多いのがダメだということではない。
- 観光入込客数の水準を示すとしても，表現の仕方としては現計画のようにただ 550 万人ではなく，内訳を示すなど観光関連事業者に伝わりやすい形とする。

（３）計画の方向性，理念・方針について

- 函館市の観光産業の振興と他産業への波及等による経済波及効果により，函館市産業及び市民の生活も豊かにすることを見える形で表す。
- 観光関連事業者にとって今後どうしていくか指針となるようなものであるべき。市の方向性を出すことで，民間事業者がやることを考え，投資しようと思えるような形。さらに観光事業者に限らず，様々な事業者がそこに紐づいてやれることを考えてもらえると良い。
- 計画の方向性に沿った市の観光施策を民間事業者が活用することで，相乗効果を出しやすくなる。
- 基本理念として観光事業者をメインに考えたときに，観光業の安定的な経営がテーマとして挙げられる。観光業が安定的に経営していくために，函館で大きな課題となっているのはオフシーズンの平準化。他にどういうことが必要なのか，議論が必要だろう。
- 数値目標は当然必要であるが，重要なのはその数値が何を表しているのか。数値をひとり歩きさせず，観光で函館は何をしたいのか，それをすることによりどんな数値に表れるのか，示さないといけない。
- 市民に分かりやすく伝えるために，消費額については他産業との比較もひとつの手段として良い。時間軸の比較も良いが，全体の生業のなかで観光業が果たす役割というのが一目瞭然となり，関心を持ってもらうことに繋がり，雇用にも繋がっていく。
- 観光は様々な業種に多様に波及する産業であり，そのことが分かりやすく市民や各事業者，業界に知れ渡れば，多くの人が関わりを持っていって，もっと大きな産業になるとしたら，とても夢のある街になる。そういったことが表現出来ればとても良い。
- 消費額を増やすということでコンセンサスが取れるのであれば，そこからひも解いていくのが

良い。消費額を増やすためには，泊数を増やす必要があるといったロジックが成り立つ。

- 平均宿泊数を増やすことについては，近隣の市町村を含め道南で見るという考え方もひとつあるが，函館の観光基本計画に盛り込むことなので，函館でまず何が出来るか考えるべき。
- 平均宿泊数はなかなか伸びていないが，市内でも宿泊数を伸ばすポテンシャルはある。現状コンテンツをうまく提供出来ていない印象。ＡＴのように，ストーリーを作って上手く繋げて提供することが必要ではないか。そうすることでこれまで近場の有名観光地しか行かなかったものを面で広げることが出来るし，オフシーズンの問題についても，上手く魅力的なものを作ることで，入込数増加に繋がるのではないか。